

『ウォッチング労働法〔第4版〕』

(D.K・司法修習生・20代)

直近の司法試験合格者としてコメントする。近時の労働法の演習書では、水町勇一郎ほか『事例演習労働法〔第3版〕』(有斐閣)の一強であった。選択科目は基本七法に比べ演習書がかなり少なく、その中でも良質な事例問題や解説、適切な難易度となるとさらに限られる。また、労働法は他の科目に比べて、法改正や新しい重要判例の流れが極めて速い科目である。そのため、昔の良書が今でも通用するとは言い難い。そこで10年ぶりに改訂され、良書としての輝きを取り戻したのが本書である。本書では解説にとどまらず、「解答へ道すじ」として解答例も示されており、自学自習に非常に向いている。今後の司法試験業界において、労働法選択の受験生は本書と『事例演習労働法』を避けては通れないであろう。本書と『事例演習労働法』の二強であるという点から比較すると、本書の方が解説・解答例が濃厚であるとの印象を受ける。しかし、本書は読み手を意識したスラスラと読めるような記述がなされている。本書と『事例演習労働法』はどちらも良書であり甲乙つけ難いが、どちらか一方をメインにしたうえで、学習者の苦手な分野を深めるために他方をサブで用いるというような学修も有用であろう。

『法学教室』2020年2月号(No.473)掲載「Reader's Voice」より